

ほほえみ 第103号



令和元年という文字も、まだ目に新しいところですが。私は最近、ようやく令和元年と書く機会が出てきましたが、まだ、手になじまない感じです。さて、年号に関わらず、一日一日が過ぎていく速さには驚かされますが、この季節はバラの咲く季節です。季節を忘れず精一杯咲くバラの姿を毎日見ることができて、いつもの時間の喪失感ではなく、時間の経過を楽しむ気持ちも強い季節です。

がん遺伝子パネル検査

最近、保険適応となったがん遺伝子パネル検査に関してご説明します。外来でも、遺伝子パネル検査ができるのかと質問を受けることも増えてきていますが、この検査に対する誤解も生じているためです。

今回、保険適応となった遺伝子パネル検査は、2つありますが、

- ・ NCCオンコパネル 126遺伝子
- ・ FoundationOne 324遺伝子、17の分子標的薬に対するコンパニオン診断

となっています。東北地方のがんゲノム医療連携病院の指定が遅れていますが、現時点では、本県では、岩手医科大学附属病院が窓口になります。また、対象の方は、

- ・ 原発不明癌
- ・ 標準治療のない希少がん
- ・ 標準治療が終了、または終了が見込まれる固形がん患者さんで、且つ、全身状態が良好な方

となっています。実際には、極めて限られた方が対象ですが、検査が即、治療に結びつく訳ではありません。推定では上記の条件を満たす方で治療が提案になるのは約10%と言われています。

また、標準治療が終了し、マイクロサテライト不安定性の検査で不安定性が証明された方は、現段階でも免疫チェックポイント阻害剤の適用にはなるので、がん遺伝子パネル検査を行わなくても治療に結びつく可能性があります。

どちらかという、今後のがん医療の基礎データとして重要になるといった意味合いでもあるので、内容をよくご相談させていただければと存じます。

がんゲノム医療中核拠点病院(11カ所)



村松静子先生にお会いしてきました

現在、ファイザーヘルスリサーチ振興財団から研究助成いただき、『医療分野での意思決定』の研究を行っています。研究課題を敷衍して、医療意思決定論というものを纏めようとしていますし、派生したキャンサー・マインド・プログラムも始動していることもあり、これらに関して、議論したり、ご助言をいただくという機会を折に触れて設けております。

今回、在宅看護を日本で最初に行なった村松静子先生に、お時間がいただけたので、東京でディスカッションしてまいりました。ニュースレター90号でもご紹介した、メッセンジャー・ナースの活動を開始されている方で、日本で数少ない、フローレンス・ナイチンゲール記章を2011年に受賞されております。

先生の貴重なご経験や、臨床に即したアドバイスを沢山いただきましたし、何より、柔軟で行き届いた視点、困難に立ち向かう強さをビリビリ感じました。3時間以上休まず会話していたのですが、あっという間に感じました



アンコール「最期のときの思いをつなぐ」
6月17日までアンコール放送を聞けます。
<https://www4.nhk.or.jp/kokoro/27/>

ピエールの季節

今年もピエール・ド・ロンサールの季節が巡ってきました。地植えで3シーズン目を迎え、壁面に誘引していますが、ほぼ一株で壁面を覆うまでになりました。先月末に開花し、気温の上昇もあって、一気に咲きそろってきています。

この薔薇に関しては、例年より開花が早い感じです。例年、我が家では、ラプソディ・イン・ブルーが最初に満開を迎えますが、今年は、時間差があまりありません。



ピエール・ド・ロンサール(上)
ラプソディ・イン・ブルー (右)



MEMO

6月のがん化学療法科の予定

- | | |
|-------|------------------|
| 6月4日 | 診療応援(平出先生) |
| 6月11日 | 診療応援(工藤先生) |
| 6月18日 | 診療応援(平出先生) |
| 6月21日 | 新渡戸稲造記念メディカル・カフェ |
| 6月25日 | 診療応援(工藤先生) |

